

武蔵野市すくすく泉事業採択・評価委員会における  
次期運営事業者選定プロポーザル 議事要録

○日 時	平成 30 年 12 月 26 日 (水) 午後 6 時～7 時 30 分
○場 所	武蔵野スイングホール 10 階スカイルーム
○出席委員	榎田委員長、吉田副委員長、松田委員、藤野委員、鶴川委員、伊藤委員
○事務局	子ども政策課長、子ども育成課長 他

1. 開会・概要説明

事務局より概要説明

※プロポーザル応募団体「特定非営利活動法人いずみの会」が入場

2. 特定非営利活動法人いずみの会によるプレゼンテーション (30 分)

- ・近藤代表理事からの挨拶、他自己紹介
- ・プレゼンテーション

3. 質疑応答 (35 分)

【委員】

ママ部活は良い取り組みだと思う。部活に参加しているお母さんたちが盛り上がれば盛り上がるほど、他のお母さんが入りづらくなるという話を他の施設で聞いている。部活の参加メンバーは毎回変わるのか、また、部活に入れないお母さんをスタッフがどのようにフォローしているのか。

【いずみの会】

ママ部活には常にサポートをするスタッフが 1 名入っている。部活が始まる前にその時ひろばにいるお母さんたちに声をかけて参加を促している。また、一回きりの参加でも良いということにしている。

【委員】

初めてひろばに来た方のフォローが大切だと思うので引き続きお願いしたい。

【委員】

地域子育て応援マーク (チャーム) ※について、非常に良い取り組みだが、今後の展開についてどう考えているか。 ※「この地域で乳幼児の子育てをしている保護者の方とお子さんを、温かく見守っています」という意思表示をするもので、バッグに着けられるチャーム

【いずみの会】

キリン福祉財団の助成事業であり、12 月末で一旦報告をまとめる予定である。

チャームは約 300 個残っているので、それをどう使っていくのかをこれから検討すると

ころである。商店をターゲットにチャームを配るのではなく、マークをつけるという展開も考えているが具体的にはこれから考えていく。

**【委員】**

コンセプトは子ども子育てを応援するまち武蔵野にぴったりだと思うが、すすくすく泉の名前を入れなかった理由はどんなことか。

**【いずみの会】**

すすくすく泉を知ってもらいたいわけではなく、地域の中で子育てに関心がある方、見守っているよと伝えたい方にチャームをつけてもらい、広く広まって欲しいという思いがあるので、あえてすすくすく泉の名前は入れなかった。

**【委員】**

目標に「質を高める」とあるが、具体的にはどのような取り組みを実施する予定か。また、東京都の最低賃金も上がっているなかで、限られた予算でのスタッフ給料のベースアップについてどのように考えているのか。

**【いずみの会】**

厳しい状況ではあるが、市からのキャリアアップ補助金を使って上手くベースアップをしていきたい。

**【いずみの会】**

質を高める部分については、毎月のミーティングや研修を今までどおりやっていくとともに、3事業の交流を深め、理解をし合い、そこから生まれてくる何かによって質を高めていきたい。

**【委員】**

資料の資金計画書と平成29年度実績報告について、平成29年度については、収入面は、一時預かり保育の人数が予定に満たず、収入が見積もりより低かった。支出面は、常勤スタッフが辞めたこと、小規模保育の処遇改善補助金により間に合っているということである。現状と来期の見込みについて、収入面での園児数、一時預かりの数の見込みをどう考えているのか、また、スタッフの状況と、処遇改善の補助金は見込んでいないのかどうかを教えていただきたい。

**【いずみの会】**

常勤は現在5名。内訳は、小規模保育事業で2.5名、ひろば事業で1.5名、管理担で1名。その他40名強の非常勤スタッフがいる。去年は処遇改善の補助金を賃金に充てた。来年度のキャリアアップ補助金については金額が決まっていないので、現時点では計画書には見込んでいない。現状の公定価格と、地域子育て支援拠点事業で予定されている補助金1,140万円を見込んで計画を立てている。全体の人件費が88パーセントに上がっているため、経費を若干抑えて資金計画を立てている。利用者数は、小規模保育は10名、一時預かりは150名を見込んで収入の計画を立てている。

**【委員長】**

職員の年齢が上がっていくなかで、今後の人材育成、人材の確保の計画についてどのように考えているか。

【いずみの会】

事業開始から5年経過したところで、次の5年での人材確保が大切だと考えている。しかりと常勤を確保していきたい。現在、小規模保育事業で1名を増やす方向で検討している。

【委員長】

具体的な計画はあるのか。

【いずみの会】

常勤の保育士を確保するのが難しい状況である。若い方はフルタイムで稼げる場所へ応募されるが、すくすく泉に応募される方は、仕事や育児がひと段落し、経験を活かして小規模でじっくり子どもと向き合いたい方が多い。そのような方が年齢上がって卒業されてもまた次の方が継続的に入っていただければ繋いでいける。

【委員】

29年度の決算で、小規模保育の剰余金が600万円程度あったと思うが、資金計画の中に反映されているのか。

【いずみの会】

入っていない。法人会計の方にも入っていない。

【委員】

今後の活用の方針は？

【いずみの会】

人件費への活用が想定される。事業開始時の3年間で人件費の見込みが立たなかったことで剰余金が発生していた。5年目に入って人件費の予算と実績が合うようになってきたので、今後は剰余金を使っていきたい。

【委員】

剰余金を有効活用していただきたいので、新たな事業展開の際には市に相談してもらいたい。

【委員】

24時間実施の一時預かりを行っているところは少ない。どのように活用されているのか、具体的なエピソードがあれば教えていただきたい。また、子ども家庭支援センターや利用者支援事業との連携での活用状況についても教えていただきたい。

【いずみの会】

現在、泊りの一時預かりについては、初年度数回の利用はあったが現在は利用も問い合わせもない。早朝7時からや深夜22時までの利用はときどきある。

【委員】

もし24時間実施の一時預かりを知っていたら利用できたのに、という方もいるかもしれ

ない。つぎの5年で広報に取り組む予定はあるか。紹介や市への協力要請なども考えているのか。

**【いずみの会】**

一時預かりの登録時に1対1できちんと説明しているので、登録者が24時間の一時預かりを知らないということはない。外への広報も考えてみてもよいと思う。

ただ、現状ほとんど利用がないので、そのためのスタッフを配置しておくことが難しい状況である。広く広報するに当たっては、スタッフの配置についても合わせて考えていかなければならない。

子ども家庭支援センターからの連絡で対応したケースも何件かある。限定したスタッフで情報共有し、対応している。そのような方でもひろばでごく普通にすごしており、良いかたちで受けて、地域に繋げることができていると思う。逆に心配だと思う子どもがいたら子ども家庭支援センターに連絡を入れることもある。

**【委員】**

小規模保育では「子どもが豊かに育ち、親子で連携しながら～」と目標に挙げられているが、保護者が参加できる講座等の開催で実践されていると考えてよいか。また、一時預かりについて、小規模保育で預かっていた子どもが小学生になってから一時預かりを利用する例もあるのか。

**【いずみの会】**

保護者との関係については、保護者が参加できる様々な講座があり、ひろばの講座への参加だけでなく、小規模保育の保護者会の中で講座を開催したこともある。現在はどちらかということ、保護者同士で気楽に話せる関係作りや情報共有に力を入れている。一時預かりは小学校6年生まで利用できるもので、小学校4年生くらいまでは兄弟での利用もあり、卒園しても繋がりがあると考えている。

**【副委員長】**

3つの事業の利用者が日常的に交流しているとの実績報告があったが、それぞれの事業、または3つの事業が地域と関わることについて、実績と課題を踏まえて今後どのような見通しがあるか。また、卒園児との関わりについても今後の見通しを教えていただきたい。

**【いずみの会】**

3つの事業の日常的な関わりについては、公園が目前にあるので、小規模保育、一時預かり、ひろばの親子と一緒に遊んでいる。室内でもひろばと保育室を行き来しながら関わりを持っている。

ボランティアに関しては、「はっぱさん」という名称で地域の方が参加できる仕組みがあり、お花を飾りに来てくれる方や、遊んでくれる方がいらっしゃるので、今後も充実させていきたい。卒園児や利用者だった子どもが増えていく中で、実家のような場所にしたいと考えている。常にそこにあって、知った顔があって、安心できる場所にしていきたい。

**【副委員長】**

具体的にどのような方策を持って取り組んでいこうと考えていらっしゃるのか、具体的なことがあれば教えていただきたい。

【いずみの会】

各プログラムは地域の方も参加できるようにしており、そこから「はっばさん」に登録して参加しませんか、との声かけをし、関わる方を広げていっている、

【いずみの会】

すくすく泉に本格的なスピーカーを入れたことがきっかけで、地域の方が参加してミニコンサートを開いたり、子ども達に音楽を教えたり、お話を開催したりしている。またスピーカーがあることで、民生委員の方々がコーラスを開催してくれたりもしている。地域交流が今後重要だと考えているので、そのような地域の方との交流を広げていきたい。3事業の交流とあるが、同じ場所で活動することで、それぞれの子ども達と一緒に育っていると考えている。

【いずみの会】

先ほど話に出たスピーカーを設置してくださったのも地域の音楽家の方で、今もメンテナンスに来て下さり、地域交流にもなっている。もともといずみの会には、この地域をどうにかしたい、なにかやりたい、という地域の方がたくさんいて、すくすく泉を支えてくれている。

【いずみの会】

小規模保育でも、武蔵野赤十字保育園のOBの方が人形劇団を作ってみせに来てくださり、ノウハウを届けてもらっている。緑ボランティアの方がお花を植えてくださるのを子どもたちが見ているということもある。色々なところに地域交流の種が落ちていて、それをどうコーディネートしていくかが重要だと考えている。地域の高齢者の力を活かす場や、様々な世代の力の活かし合いができる場、地域の方のやりがい繋いでいく場を作りたい。

【委員】

地域との繋がりについて、全国中の拠点ですくすく泉のようになれば良いと思うようなお話をたくさん聞けたと感じている。今、全国中で課題になっているのが、妊娠期からの切れ目のない支援である。妊娠葛藤をしていて妊娠してしまったけれど母子手帳をもらえずにいる方、出産直前まで仕事をしている方など、支援になかなかつながらない方と現状どのようにつながっているのか。また今後5年間でどのようにしていきたいかを教えてもらいたい。

【いずみの会】

小規模保育事業でプレママ向けに「あかちゃんふれあい体験」というプログラムを1月から4回実施予定だが、参加人数が集まらないのが課題である。赤ちゃんを触ったことがないお母さんが8割いるというなかで、その不安を軽減することに意味があると考えている。このプログラムを通して、何か困ったことがあったらこういうひろばがある、来てい

い場所があることを伝えたい。また、子育てを経験したお母さんの実際の話聞いて子育てのイメージを持ってもらいたい。実際に産まれる前に「赤ちゃんはかわいいな」ということを実感してもらいたい。

**【委員】**

参加人数をどのように増やすか、どうやって参加者を紹介してもらうかということでは、直接妊婦に出会う場がないのであれば、誰に紹介してもらうかという視点で、産院や保健師や行政の力も借りることもこれからの課題ではないか。今どういう状況でどうなれば良いということがあれば教えてもらいたい。

**【いずみの会】**

ホームページやパンフレットで案内しているが、なかなか参加してもらえない。まだ社会とつながっていて産後のイメージがつかない方が多い。産院をめぐったこともあるが、パンフレットを置かせてもらえず、紹介してもらうことも難しい。また、このとり学級でパンフレットを配布しているが、なかなか集客につながっていない状況である。

その後にさらに小規模保育事業でプログラムを立ち上げてこのとり学級でパンフレットを配っているところである。上手くいっている状況ではないが、大事なことだと考えている。低月齢の赤ちゃんを抱えてひろばに来た方が実際に困っている状況があるので、なんとか妊娠期から繋がりたいと思っている。

**【いずみの会】**

今回プロポーザルの件が市報に載ったことで、利用者のなかには運営事業者が変わるのではないかと不安になる方もいた。保育士を探していても、募集要項に5年毎に事業者が変わる可能性があることを提示しなければならず、そうなるとなかなか応募してもらえない。小規模保育事業そのものについても5年毎に事業者が変わることで不安定な印象を与えてしまっている。この事業の今後をしっかりと考えるにあたって、5年毎の事業採択について、改めて検討していただきたい。

4. 審議 (25分)

**【委員長】**

まず、すくすく泉事業を特定非営利活動法人いずみの会にお任せしてよいかどうか。ご意見を伺いたい。

(委員全員了承)

**【委員長】**

異議ないものと認める。では、特定非営利活動法人いずみの会による事業の実施にあたって、何か意見を付けるか。

**【委員】**

拠点の中身は非常によい。全国に誇れるひろばだと思う。地域の協力もあり、いずみの会としては普通のことだという話であったが、全国のひろばはそこで苦労している。母子

保健との連携を強化するとよいのではないか。保健師との連携を目指してもいいかもしれない。

また、次世代の保育者の人材育成についてであるが、事業開始から5年経過したので、あと数年すると利用者が保育者側になるかもしれない。

**【委員長】**

団体としても、子育てがひと段落した方が事業を担っていく、という認識はあるようだった。これからもそのように事業を進めてもらいたい。

それでは、「事業実施にあたり人材確保と人材育成に積極的に取り組むこと」という意見を付けて、特定非営利活動法人いずみの会の事業を採択すべきであるとする。

5. 事務連絡

事務局より今後の予定について説明

**【委員】**

この事業採択・評価委員会の準備に団体の時間や人件費がとられていると思う。もう少し提出物を軽減するなど、検討をお願いしたい。